

## 平成 28 年度第 3 回秩父市総合教育会議議事録

期 日	平成 28 年 12 月 13 日 ( 火曜日 )
時間・場所	15 時 30 分～16 時 45 分・秩父市歴史文化伝承館 2 階庁議室
出席者	<p>久喜市長、新谷教育長、新井(康)教育委員、山中教育委員、久保教育委員、新井(正)教育委員</p> <p>市長室長、地域政策課長、地域政策課主査、参与、主事</p> <p>教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長 2 名、学校教育課長、保健給食課長、文化財保護課長、教育研究所長、教育研究所主幹</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・念願だった「秩父祭の屋台行事と神楽」がユネスコ登録され、大変うれしく思う。今年の夜祭は、ユネスコ登録直後であり、さらに土曜日と重なったこともあり、約 33 万人の人出となった。地場産センターの売上も昨年の 2 倍近いと聞いている。秩父の歴史・文化は今後も大切にしていきたい。</li> </ul> <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコ登録されたことは大変すばらしい。秩父の貴重な財産である伝統・文化を学校教育に積極的に取り入れていく。また、今後外国人観光客が増えることが見込まれるため、英語力の向上にも力を入れていきたい。</li> </ul> <p>○議事</p> <p>(1) 平成 29 年度教育委員会新規施策等について</p> <p style="padding-left: 2em;">～コミュニティ・スクール導入事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料 1 について教育委員会事務局より説明。 歳入予算は事業費の 1/3 が国、1/3 が県から補助される予定。</li> <li>・H29 の 4 校は具体的に決まっているのか。(山中教育委員) →尾田蒔小・中と他 2 校 (検討中)。H30 で残り全ての小・中学校で実施する。(教育委員会事務局)</li> <li>・学校と地域の支え合いは重要。コミュニティ・スクールによるまちづくりを期待したい。運営協議会委員の選出方法は決まっているのか。(新井正教育委員) →学校評議員とは別に選出するが、評議員をさらに発展させ、より地域とともに学校運営をしていけるような人選とする。そのために、コミュニティディレクターを 1 名雇用する。(教育委員会事務局)</li> <li>・来年度からの 2 年間での導入は期間が短いと思うが大丈夫か。1 年目の結果を精査してから残りの小・中学校に導入をするのが良いのでは</li> </ul>

ないか。(新井康教育委員)

→まず導入することを最重点にしている。導入した中での意見等を即座に学校運営に反映させたい。なお、国・県からの補助金が期間限定という理由もある。2年間での導入後、さらに制度を促進する事業を検討する予定。(教育委員会事務局)

→コミュニティ・スクールを導入した地域では、保護者や地域からの苦情等が減っていると聞いている。ぜひ皆さんの意見をいただきながら進めていきたい。(新谷教育長)

- ・事業を進めるうえで、学校運営協議会委員と教育委員との意見交換もできるようにしてもらいたい。(新井康教育委員)
- ・前回の総合教育会議でも話したが、アメリカでは既に実績があり成功している。また、荒川地域では既にコミュニティ・スクールのよう地域と連携した学校運営がなされている。市全域でぜひ成功させたい。(久喜市長)

(1) 平成 29 年度教育委員会新規施策等について  
～英語指導助手事業 (案)

- ・資料 2 について教育委員会事務局より説明。
- ・外国語活動コーディネーター (JTE) 4 人は日本人。英語教育の強化となる事業である。他の小学校教員の支援も行ってもらおう予定。
- ・日本人による指導ということで、小さい子には良いと思う。子どもたちには英語を好きになってもらいたいので、ぜひ英語の勉強時間以外での活用も考えてもらいたい。(新井康教育委員)

→子どもに寄り添った指導もできると思うので参考にしたい。(教育委員会事務局)

- ・コーディネーターのサポートはどうなっているのか。(久保教育委員)

→月 1 回程度、研修や報告会等で情報共有する時間を取りたいと考えている。(教育委員会事務局)

→サポートは学校任せにせず、教育委員会で具体的に示し、英語教育全体の指針・方針を定めたい。(新谷教育長)

→英語力の向上に関しては、単に教えるだけではなく、学校という公的機関としての役割を踏まえた教育としていきたい。(久喜市長)

(1) 平成 29 年度教育委員会新規施策等について  
～秩父市文化財保護基金活用計画の立案 (案)

- ・資料 3 について教育委員会事務局より説明。
- ・民俗文化財は、後継者不足によりなくなってしまうことが懸念される

が、どのように考えているか。(新井康教育委員)

→現在は記録保存を進め、後世に伝えられるようにしている。

後継者不足は容易に解決できるものではない。この問題は他地域から人を連れてきてでも継続するべきなのかなど、地元の考え方もあるので、関係者との相談をしながら、民俗文化財の継続に向けた調整するとともに、今後策定する歴史文化基本構想に盛り込みたい。(教育委員会事務局)

## (2) 学力向上に向けた取組ビジョンについて

- ・資料4について教育委員会事務局より説明。
- ・学力向上については各校長が熱心に取り組んでいる。取組は継続することが大切。このミッションを定着させて、子どもの未来のため、未来の幸せにつなげるため、事業に取り組んでいきたい。(新谷教育長)
- ・今年度から教育研究所職員を増員してもらい大変助かっているが、市長には、更なる増員を考えてもらえるとありがたい。(久保教育委員)  
→増員したことにより、教育委員会事務局次長には学校指導監として学校を訪問してもらっているが、さらに増えることになればありがたい。(新谷教育長)
- ・資料の「2 重点目標」の4番目、「家庭の教育力の向上」について、家庭学習の習慣化は学力向上のためには非常に大切。親を巻き込めるよう、親の意識改革も合わせて進めてもらいたい。(新井正教育委員)  
→各学校で進めているが、家庭学習の大切さについて資料提供するなど、継続していきたい。(教育委員会事務局)
- ・学力向上のためには家庭学習は必要。家での勉強は量も大切だが、質を重視することが非常に重要と考える。先生が勉強の仕方、家庭学習の仕方を指導してあげるとよい。(久喜市長)  
→質の定量測定は難しいが、質を上げるポイントなどを教えてあげられるとよい。(新谷教育長)  
→勉強が苦手な子の勉強する量を増やすことは容易ではないが、例えばこういう勉強をやりなさいとポイントを指導できるとよい。(新井康教育委員)

## (3) 発達障がい支援の現状と課題・対応について

- ・資料5について教育委員会事務局より説明。
- ・子どもの障がいについて、親が把握できていない場合もあるようだが、気付かせる方法はあるか。(新井康教育委員)  
→簡単には分からない障がいもある。支援が必要かと働きかける必要

がある。保護者の負担を軽減することが大切。(新谷教育長)

→福祉部で実施する家庭訪問では、複数人でチームを組んで訪問対応している。家族を含めて支援することが必要。

また、特別支援学校との連携を図り、同校の先生やコーディネーターに来校してもらうこともある。(教育委員会事務局)

- ・この発達障がい支援については、資料にもあるとおり多くの課が関わっている。横断的に対応する必要があることから、中心的に取りまとめる担当部署を検討していきたい。

なお、今回、保健給食課で各課との調整や資料作成等を進めてきたが、これは同課が事務局をしている学校保健会からの提案だったことによるもの。(新谷教育長)

→障がい者に対する支援として、義務教育等は10数年だが、当然卒業後の方が長く、人の一生のスパンで考える必要がある。現在、医療・介護関連で地域包括ケアシステムを推進しているが、障がい者に対応した地域包括ケアシステムも必要と考える。

今後の対応について中心となる部署は福祉部障がい者福祉課でよいが、ベースラインを市長室地域政策課でつくることとする。(久喜市長)

以上